



中国平安
PING AN



パンサー アット チームタイランド
2019 SUPER GT RACE REPORT

第3戦 鈴鹿サーキット（三重県）

パンサー アット チームタイランドは、5月25日～26日、三重県/鈴鹿サーキットで開催された2019 SUPER GT シリーズ第3戦に参戦しました。

■公式予選

土曜日午前に行われた公式練習ではショーン・ウォーキンショーが走り始め、快調にタイムを縮め20分後には1分59秒668を記録しました。セッション開始後30分で赤旗が提示され走行は一時中断となりましたが、この時点でトップタイムは1分58秒245であるのに対し、ウォーキンショーのタイムは15番手です。

その後ホートンカムに交代、フリー走行を終えました。RCFはダウンフォース・サーキットである鈴鹿サーキットと相性が良く、ドライバーは好感触のうちに走行を終えました。チームはソフトタイヤでタイムアタックをすればQ1を突破できそうだという感触を得て公式予選を迎えることとなりました。

土曜日の鈴鹿サーキットは好天となり、気温は30度を超え路面温度も48度と想定より高くなりました。公式予選Q1はウォーキンショーが担当しました。チームは他チームとタイムアタックのタイミングをずらすためコースインを遅らせ、約5分待機した後ウォーキンショーをコースへ送り出しました。ところがこの作戦が裏目に出てしまいました。

ウォーキンショーはタイヤをウォームアップしタイムアタックにかかりましたが、そこでコース上のアクシデントを理由にセッションが赤旗で中断されてしまったのです。ウォーキンショーは、最高性能がウォームアップ後の1周しか出ないソフトタイヤでのタイムアタックを中断し一旦ピットへ戻りました。この時点でタイムの順位は25番手です。

約9分の中断の後、セッションは残り4分で再開されました。残り時間4分では1周のウォームアップと1周のタイムアタックが限界です。ウォーキンショーは慎重にタイヤを温め直しタイムアタックに入りました。ところが勢い余ってデグナーカーブでオーバーランし、コース外側に敷いてあった人工芝をフロントスポイラーに拾って空力バランスが狂ってしまいました。マシンは安定性を失い、ウォーキンショーはペースを落とさざるをえませんでした。その結果、ラップタイムはフリー走行で記録したタイムにも届かない2分01秒370に留まり、念願のQ1突破はかなわずスターティンググリッドは不本意な26番手となりました。

■決勝レース

鈴鹿サーキットは決勝日も好天となりました。ドライコンディションでのスタートは今シーズン初めての事です。チームはスタートをウォーキンショーにまかせ、今回のコンディションではソフトタイヤの方がタイムを維持したまま周回が続けられると予想してソフトタイヤを装着、できるだけ前半で周回数を稼ぐ作戦を採りました。

26番手からスタートしたウォーキンショーは、周囲のペースが遅い車両をオーバーテイクするのに手間取りながらも着実に順位を上げていきました。ところが再び流れは裏目に出ました。順位を19番手まで上げたところでコース上にアクシデントが発生、GT500クラスのトップが17周を走り終えた段階でセーフティーカーが介入してしまったのです。

セーフティーカーが退去し23周目からレースが再開された直後、多くのチームは再スタートでペースが上がらないうちにピット作業を終えタイムを稼ぐ作戦を採ってピットインを行いドライバー交代を行いました、しかしウォーキンショーで周回数を稼ぐ作戦だった当チームはレース序盤のドライバー交代は避けざるをえませんでした。

ウォーキンショーが周回を重ねる間、他チームはピット作業を行い、ウォーキンショーの見かけの順位は徐々に上がって27周目には2番手にまで進出しました。ウォーキンショーは35周を走ってピットイン、チームはタイヤを交換、給油を行ってホートンカムをコースへ送り出しましたがその間に順位は20番手にまで下がっていました。

その後ホートンカムは着実に周回を重ねました。チームはタイヤの状況を考慮し走り始めはペースを抑え気味にするよう指示を出していましたが、残り10周となった時点でペースアップを伝えました。ホートンカムはそれに応じてペースアップ、他チームの脱落にも助けられて徐々に順位を上げ、トップから1周遅れのクラス16位でチェッカーフラッグを受けることとなりました。パンサー アット チームタイランドは、開幕戦から3戦連続の完走を遂げてチームポイント3点を獲得、シリーズランキングで同点18番手につけてシリーズ第3戦を終えました。

■正式結果

公式予選 クラス26位（出走29台） 2分1秒370
決勝 クラス16位（出走29台） 1周後れ

■コメント

A ドライバー：ナタポン・ホートンカム

「チームがとてもいい仕事をしてくれ、ぼくもそれに応えられたと思っています。もちろん反省点もあります。今回のレースでもいくつもミスをしてしまいました。やはり走り出しでタイムが上がらないし、GT500に抜かれるときやタイヤを消耗してペースが落ちたクルマを抜くときなど、タイムを落とすすぎてしまいます。次はホームコースのタイでのレースなので、思い切り走ります。最初のラップから最後のラップまでプッシュしまくるつもりです」

B ドライバー： ショーン・ウォーキンショー

「フリー走行ではいい感じで今回こそQ2へ行けるだろうと感じました。でも予選Q1ではタイムアタックを中断しなくてはならず、再開後にタイムアタックをやり直そうとしたんですが、今度は自分がミスをしてコースをはみ出してしまいました。そこからはクルマが不安定になって、タイムを出すことができませんでした。結局Q2に行けず残念です。レースはいいペースで走れたので、もっと上位からスタートできていればいい結果が残せたはずなのにと本当に残念です」

チーム監督：ステポン・サミタチャ (Suttipong Smittachartch)

「予選が良ければもっと前でフィニッシュできたレースでした。予選では本当に運が悪かった。決勝レースでのラップタイムは悪くありませんでしたが、レース前半遅いクルマにひっかかってしまったのが残念です。もっと前からスタートしていればまったく違う展開になっていたでしょう。でも26番スタートから16番まで順位を上げられたのだからチームの力がついてきたことには自信を持ってました。ナタポンはクルマにも馴れてきて、鈴鹿も得意だったのでいい走りをしました。次はホームコースのタイですから頑張ります」